

地球の  
「いきいき」の  
ために

# 環境活動の基本的な考え方と体制

自然と社会と人間との調和を大切に「自然環境保護」と「空容器問題」に取り組んでいます。また、ISO14001に基く環境マネジメント体制を構築し、事業活動全般にわたる環境負荷削減に取り組んでいます。

## TaKaRaグループ環境方針

### 1. TaKaRaの企業理念

「自然との調和を大切に、発酵やバイオの技術を通じて人間の健康的な暮らしと生き生きとした社会づくりに貢献します」この基本理念に基いて、TaKaRaグループは積極的に環境保全に取り組み、豊かな社会づくりに貢献します。

### 2. 基本方針

TaKaRaグループの業務内容は、TaKaRaグループ全体の経営資源配分等グループ戦略の推進やIR活動および酒類・食品・酒精事業全般とこれを支援するマーケティング調査・人材派遣、IT化支援など多岐にわたっています。これらの活動が環境に与える影響を的確に把握し、地球環境保全に貢献するために、次の基本方針に基き活動します。

- (1) 地球環境の保全と事業活動の調和を経営の重要課題の一つとして取り組みます。
  - (2) 環境マネジメントシステムを構築し、継続的な改善と汚染の予防に努めます。
  - (3) 環境に関する法規制及び組織が同意するその他の要求事項を遵守します。
  - (4) 事業活動全般の環境影響評価を的確に行い、技術的、経済的に可能な範囲で目的・目標を定めて実践し、また定期的に見直すことにより環境パフォーマンスの向上を図ることを約束します。
  - (5) TaKaRaグループが行う事業活動の中、特に以下の項目について優先的に環境保全活動を推進します。
    - ① 天然資源を大切に、省資源・省エネルギーに努めます。
    - ② 環境に配慮した商品開発に努めます。
    - ③ グリーン購入に努めます。
    - ④ 環境活動への取組み、環境パフォーマンス情報を積極的に開示し、社会とのコミュニケーションに努めます。
  - (6) 本環境方針は、教育啓発活動を通じてTaKaRaグループの全構成員に周知するとともに、社員の社会貢献活動への参加を積極的に支援します。
- なお、本環境方針は、一般の人が入手可能なものにします。

2012年6月28日

宝ホールディングス株式会社 取締役社長 / 宝酒造株式会社 取締役社長 柿本 敏男

注) ISO14001:2004におけるTaKaRaグループは、宝ホールディングス、宝酒造、トータルマネジメントビジネス、宝ネットワークシステムで構成されています。

地球の「いきいき」のために

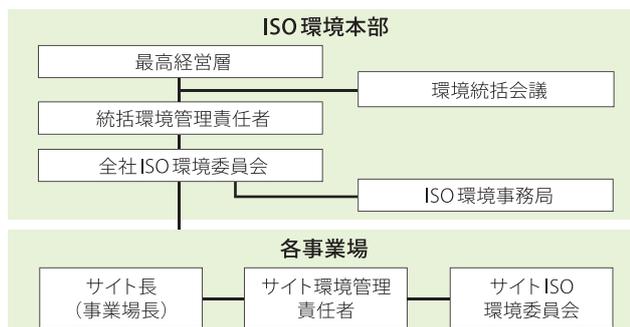
## TaKaRaグループ環境マネジメントシステム

### ISO14001に基く環境マネジメント体制を確立

宝酒造の全工場、全支社、本社、およびトータルマネジメントビジネス、宝ネットワークシステムでISO14001の認証を取得しています。ISO環境本部を中心に経営と直結した目標に向かって活動しています。

 1: ISO14001、9001取得年表

#### ● TaKaRaグループ環境マネジメント体制



## 環境関連法規の遵守状況

### 定期的に遵守状況をチェック

ISO14001のシステムを有効に利用して定期的なチェックを実施し、法規の遵守状況を確認しています。また、環境汚染の未然防止の観点から、自主基準やガイドラインを設定しています。

なお、2012年度は環境関連法規に関する違反事項はありませんでした。

#### 主要な環境関連法規

- 公害関係法規 (水質汚濁防止法など)
- 廃棄物処理関係法規 (廃棄物処理法など)
- 化学物質管理関係法規 (PRTR法、毒物劇物取締法など)
- リサイクル関連法規 (容器包装リサイクル法など)
- 省資源関連法規 (省エネ法など)
- 防災・危険物関係法規 (消防法など) など

## 宝酒造の環境活動

宝酒造は、穀物や水、微生物など自然の恩恵を受けて酒類や調味料、酒精といった幅広い事業を行っています。このため、豊かな自然環境が保たれることは、当社が存続するうえでの大前提となります。一方、当社の商品は、ガラスびんやペットボトル、紙容器、アルミ缶などの容器に詰めて販売します。商品が消費されたあとに発生する空容器は、社会に大きな環境負荷を与えています。以上の理由から、当社とのかかわりが深い「自然保護」と「空容器問題」への取り組みを環境活動の2本柱と位置付けてきました。

「自然保護」では、1979年にスタートしたカムバック・サーモン・キャンペーンをはじめ、1985年に設立した公益信託「タカラ・ハーモニストファンド」、2004年開校の宝酒造「田んぼの学校」など、30年以上にわたりさまざまな活動に取り組んでいます。

「空容器問題」では、容器の3R (Reduce・Reuse・Recycle) を考慮した商品開発を進めるとともに、当社独自の取り組みとして、新たな容器を必要としない焼酎のはかり売り (Refuse) を加えた4Rの取り組みを推進しています。また、2012年より環境教育イベント宝酒造「エコの学校」を開校しています。

### 宝酒造は自然と社会と人間との調和を大切にしています

